

帯石観音

《周防大島町文化財保護審議会委員 光田伸幸》

嵩山の中腹、日前にある帯石観音は、弘仁2年（811）、弘法大師がここに靈石を見出し駐錫、崖上に参籠ののち、高さ2尺の千手観音、脇土として不動明王、毘沙門天の三尊を自ら彫刻し安置したことに始まるという。

帯石の由来は、弘法大師がこの靈石に「南無阿弥陀仏」の6字の名号を投筆、その下に子安の地藏尊を自刻安置し、さらにはこの岩に帯の形を刻み「懐胎の者がこの岩の図を帯にして信心なる時は、その産安し。」と後の世の女人産産を祈願したことによるという。創建当時は真言宗で、靈石にちなみ帯石山と号し、法華經普門品（観音經）から普門寺と名づけられた。室町時代初期、周防国守護大内弘世が西国霊場を模して周防国三十三観音霊場を開いた際、その4番札所となった。天文

3年（1534）、西湖良景和尚の時に曹洞宗となり、明治4年（1871）に安下庄の加水寺と合併した。加水寺は普門寺六世宗外寿三和尚の開基で普門寺の末寺であったが、普門寺の名を残しつつ加水寺を本事務所としたため、帯石観音は帯石山普門寺の飛び地境内となり、現在に至っている。

駐車場から百段近い石段を登っていくと右手に大師堂（大島八十八ヶ所霊場57番札所）、左手に大悲閣がある。そこからさらに56段登りきったところに観音堂がある。そばの巨石が帯石で、高さ8m、周囲が27mある。観音堂左手金剛水の方から、時計回りにお参りし、帯石の縁に石を置き、石が岩に止まれば吉とされる。万一、他の願掛けの石を誤って岩から落とした時は、年の数ほど石をあげれば吉となるという。

観音堂内には般若心経の写経や乳絵馬などが奉納してあり、今日でも戌の日などには岩田帯を携えた妊婦や家族などの参詣が各地から絶えない。近年は、帯石のほか立岩（馬頭観音）、巖門（十一面観音）、岩屋（虚空蔵菩薩、山王権現）とあわせて四ヶ所巡る「しあわせ祈岩」（四岩合わせ奇岩）の参詣者も増えている。



柳井警察署だより

☎ 0820 (72) 0110
柳井警察署 ☎ 0820 (23) 0110

秋を無事故・無違反で過ごそう！

秋口は、日没時間が急速に早まり、夕暮れの見通しの悪い時間帯と帰宅時間が重なることから、交通事故の多発が予想されます。ドライバーの方は早めのライト点灯のほか、特に通学路付近でのスピードの出し過ぎや歩行者の動静などに十分注意し、歩行者の方は明るい色の服と反射材を着用することで交通事故を防止しましょう。

また、飲酒運転は極めて危険で悪質な犯罪行為です。アルコールを少しでも摂取すると、車の運転に必要な発見・反応・操作が遅れて重大事故につながります。本人が強い意志を持つことも大事ですが、周囲の人も飲酒運転を助長するような行為は絶対にやめましょう。

なお、9月21日(火)から30日(木)までの間、「秋の全国交通安全運動」が実施されますので、期間中はいつも以上に安全運転を心がけてください。

みなで、秋を無事故・無違反で乗り切りましょう。

